

振りに席貸屋でも行こかいな』『あほらしい事を言ひなさんな』『仕様がな、今夜は二階で寝よ』
 『お老爺さん二階に蒲團がないで』『エイがな、一晚ぐらい餅むしるに巻かれてでも寝るわいな、サア
 二階へ上がる、コレ姉さん、私等は二階で寝る、お前等は勝手知らんに、火を持って上つたら火の用
 心が悪い、マア今晚は手足のばしてゆつくり寝なされ、コレ婆さん、早よお二階へ上る、先に上るぜ
 ゴツン、ア、いたやの』『老爺どん、どうしたのや』『ウン、勝手は知つて居ても二階の梁が低いも
 てやさかいに、頭を打つたのや、お前も打たんやうに上らんせ』『時に老爺どん、二階は寒いな』『婆
 さん、どうしたのや』『老爺どん、えらい事した』『どうしたのや』『用便がしたうなつた』『なぜ
 下でしてをかぬのや』『下でしとなかつたが、二階へ上つてからしたうなつた』『エイ、若い者が寝
 て居るのに、年寄が二階から上つたり、降りたりするといやがる、暗がりやで其所らでしてをきな
 れ』さて其後は餅麩に巻かれて寝ましたが、ナカ／＼寒うて寝られませんが、夜の明るのを待焦がれて
 下へ降りて來ましたが、二人は煤煙で顔が眞黒けで御座ります、さて、かうして終に見なれぬ女が、
 出端入りして近所で妙なうわさが立つてはならぬと、此事情を家主へも、長家へも委しく話をします
 と、家主さんは中々親切な人で『これ安平さん、今話を聞いて嬉こんで居るのや、常からお前は正眞な
 ゆへに、あんな好い息子さんが出来、また其の上にそんな奇麗な嫁さんが來ると言ふのは、正直の頭
 に神宿ると言ふ事や、しかしこんな裏長家にいつ迄も暮して居ては頭が上らん、千圓を資本金にして

表へ出て商賣をしなされ、夜なきのうどんやでは金が上がらん、と言ふのが賣る物がうどん、そばに
 きつねなんば、きつね、こんな物では駄目や、内店を出すとかやく物が賣れるので、どこか好い家を
 搜して、イヤ私の方は借家の事やから長く居てほしいが、金の有る内にせねば駄目やで』『何をおつ
 しやる、僅かの資本で』『コレ安平さん、足らん處は何とか又融通をしてあげる、兎に角家を探しに
 行こう』と家主さんも世話好きで、二人を連れて道頓堀をあらこちらと探しましたところ、恰好な
 家がありましたので、それを借受け、手傳や大工を入れて普請をすることになりました『コレ安平さ
 ん、ゑらかつたやろ』『どういたしまして、お家主さんに御足勞を掛けまして』『イヤ／＼、しかし
 あの調子やつたら、近々に開店が出来るぢやらう、しかし今度の商賣は當るで、と言ふのは今迄はえ
 らい失禮やが、夜鳴のうどんやで賣る物がしれて居るが、内店を出すとかやく物が賣れる、其のかわ
 く物がみな内の人で出來て居るのがかしいな、しつぱくの事をきやといふ、お前所の苗字が木谷じ
 や、あんべいの事を安平といふ、お前の名か安平じや、小田卷の事をまきといふ、ソレ嫁さんがおま
 きさんや、蕎麥の事をしまといふ、息さんが島さんや、あんかけの事を吉野といふ、こんど來た嫁
 さんが吉野さん、ソレから今いふたきつねなんば、きつねの事を信田といふ、そこでや始めから派手
 な事をして直ぐに失敗したらみつともないさかいに、始の内はゑらかるが、うどんやそばを打つたり
 は安平さんお前さんがして、出前は島さんが持て行く様にして、帳場へはおまきさんを据らして、若